

外国語学部 (スペイン・ラテンアメリカ、フランス、ドイツ、アジア) [英語]

- 1-D 2-B 3-C 4-A 5-B 6-B 7-C 8-D 9-B
 10-B 11-A 12-A 13-C 14-A 15-D 16-C 17-A 18-A
 19-D 20-C 21-C 22-B 23-D 24-A 25-D 26-B 27-B
 28-A 29-C 30-A 31-C 32-A 33-D 34-A 35-A 36-D
 37-D 38-C 39-B 40-B 41-C 42-C 43-D 44-B 45-A

リスニング

- 49-A 50-B 51-A 52-C 53-D 54-B 55-C 56-D 57-D
 58-D 59-B 60-C 61-B 62-B 63-D 64-B 65-C 66-A
 67-C 68-A

英語 外国語学部 (スペイン・ラテンアメリカ、フランス、ドイツ、アジア)

<全体分析>		試験時間 90分
解答形式 すべてマーク式		
分量・難易 (前年比較) 分量 (減少・ <u>変化なし</u> ・増加) 難易 (易化・ <u>変化なし</u> ・難化)		
出題の特徴 特になし。		
その他トピックス 特になし。		

<大問分析>

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
A I	文法・語法	文法・語法・熟語	標準的な文法問題と、動詞・名詞・形容詞・前置詞などの語法が出題されている。11, 14, 15, 16は動詞の語法を問う問題。	標準
A II	読解総合 (長文内容一致)	「ボクサー、ジョー・ルイス」	「ボクサー、ジョー・ルイスの一生」について述べた文章。21.のように「該当しないもの」を選ぶ問題は、すべての選択肢を慎重に検討することが大切。	標準
A III	英語総合	中文空所補充	「リンゴの開発者ジョニー・アップルシード」。文脈と、動詞・名詞などの語義・語法を問う問題。40, 45は基本的な熟語。	標準
AIV その2	聞き取り	会話・長文形式	Aは会話・英文に対してそれぞれ1問ずつ内容一致の問題が出される (10問)。Bは会話・英文に対してそれぞれ2~3問ずつ内容一致問題が出される (10問)。放送は1回しか聴き取れないため、注意して聴くことが大切。会話や英文の難度はそれほど高くないが、選択肢が紛らわしいことがあるので注意が必要。	標準

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」
 難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

A Iでは標準的な文法と、動詞・名詞・形容詞・前置詞などの語法・熟語が出されるが、こうした知識を問うものは本番までの地道な努力が大きな差となって現れるので、しっかり勉強しておくこと。A IIの長文読解では、内容的に難度の高いものも出ているので、難しい内容の英文に慣れておくこと。A IIIの中文空所補充は、文法・語法の知識のほかに、前後の文脈から正しいものを選ぶ練習をしておくこと。リスニングは90分のうちのおよそ20分を占め、残りの70分で筆記部分を解くことになるため、筆記の問題を素早く解けるようにしておくことが必要である。A IやA IIIの問題にあまりこだわりすぎないで、A IIの長文にじっくり時間をかけることが成功の秘訣だ。リスニングは日ごろからNHKのラジオ・テレビ講座などで常に耳を鍛えること。英検 (2級~準1級) のリスニング対策問題集も効果的だ。